

令和7年度第1回大分市上下水道事業経営評価委員会議事録（要旨）

● 日 時：令和7年5月2日(金) 午後1時30分～午後3時30分

● 場 所：上下水道局5階 大会議室

● 出席者：

【委員】林勇貴委員、荒金一義委員、秦野真郎委員、
木内純子委員、岩崎美紀委員、福田立枝委員、新垣幸代委員、
谷川真奈美委員（計8名）

【事務局】衛藤上下水道部長、奥家上下水道部審議官、猪立山総務課長
産谷経営企画課長、加藤営業課長、荒金浄水課長
左山水道維持管理課長、泥谷水道整備課長、
木元下水道整備課長、清家下水道施設管理課長
(経営企画課)佐藤参事補、小野参事補、大久保主査、衛藤主査、井ノ口主査、
竹中専門員、横江、高森、上野
(計19名)

● 次 第：(1)開会

(2)議事

① 下水道使用料の改定について

(3)閉会

●議事に係る質疑応答、意見

<質疑・応答>

① 下水道使用料の改定について

- 経営ビジョン策定時と令和6年度末時点の収支を令和9年度で比較してみると、下水道使用料はビジョンと比較して減少しているが、その他の収入は増加している。また、維持管理費とその他の支出はビジョンと比較して増加しているが、これはどうしてか。

下水道使用料がビジョンと比較して減少しているのは、新型コロナウィルス感染症の影響により、経済活動が制限されたことで下水道使用料が減少したことが影響しています。その他の収入は、国庫補助を受けて整備した施設の減価償却費の増加に伴い、現金支払いを伴わない長期前受金戻入による経理上の収入が増加したためです。維持管理費については、昨今の物価の上昇や労務単価の上昇など維持管理にかかるコストの増加によるものです。また、その他の支出は、耐震化等の整備を前倒しで行ったことによる減価償却費の増加によるものです。

- 試算は、設計・施工一括発注方式(デザインビルド)により、施工の期間が短縮され使用料収入が增收となる見込みも踏まえての試算になるのか。

一部区域の整備完了に伴い、その供用開始した部分の収入も踏まえて試算しています。

- 平成29年度の改定を見送った理由はなにか。

公共下水道事業が公営企業の財務適用になったことで、資産を登録し財務諸表を作成したところ赤字となつたため、この赤字解消のために再構築計画を策定し、平成25年度に料金改定を行いましたが、29年度は国が求めている最低限の使用料単価である1m³あたり150円を確保出来ていたこともあり、当時の判断で改定を見送りました。

- 改定見送りについて、29年度当時に改定していれば、現在の物価が上昇している中で値上げをする必要はなかったのでは。次回同じことがあった場合、今回のことの教訓にしてほしい。

4年ごとの算定期間の中で、正確に試算を重ねていくことで、将来の公共下水道を使用する方々の負担の平準化も鑑みながら使用料改定の判断をしてまいります。

- これから技術の進歩による節水も増えていく中、少子化の影響などにより、使用量は更に減少していくことを踏まえて、思い切った試算をしていく検討をしてはどうか。

大分市は普及率が低く、今後も未普及対策を進めていくことで使用料収入の増加が見込まれることから、今後も使用料収入のベースは上昇していくと考えています。加えて、接続に対する助成金などにより使用料収入を上げていく努力も続けていくことから、少しづつ使用料収入が増加していくという試算をさせていただきたいと考えております。

- 内部留保の使用については十分説明すれば理解してもらえる。対象となっている具体的な場所などを説明していけば良いのでは。

具体的な場所など、次回お示しいたします。